

FENSTERBAU FRONTALE 2024 の 会場レポート



展品	展示ホール	出展者数	来場者数 FENSTERBAU FRONTALE と HOLZ-HANDWERK の累 計
プロファイルシステム、 半製品、窓金具、窓部 品、素材、ガラス・ガラ ス製品、扉、固定技術、 機械、設備、補助具、遮 光、換気	9 ホール： 1, 3, 3A, 4, 4A, 5, 6, 7, 7A	2024 年 644 社 2022 年 351 社 2018 年 814 社	2024 年 75,000 人 2022 年 28,769 人 2018 年 110,021 人

2024 年 3 月 19 日から 23 日までの 4 日間にわたり、窓や扉、ファサード建設の国際見本市 FENSTERBAU FRONTALE がドイツのニュルンベルクで開催されました。FENSTERBAU FRONTALE は、2 年に一度、木材加工の見本市 HOLZ-HANDWERK と共同で開催されます。ドイツの窓サッシの約 60% は気密性・断熱性に優れる樹脂製ですが、20% は木製やアルミクラッド（木材をアルミでカバーした木製サッシ）となっているため、2 つの見本市を同時開催することにより、ビジターに包括的なサービスや製品を提供することを目指しています。

前回 2022 年の見本市は、コロナ禍の影響もあり、出展者や来場者が落ち込みましたが、今回の見本市ではかなり持ち直してきました。とはいっても、過去最高の出展者数やビジター数を記録した 2018 年の見本市には及ばず、出展者は 2018 年比で約 21% 減、来場者は 32% 減となりました。この結果については、資材価格高騰による建設計画の見直しのため、2023 年度の窓の販売実績（住宅用および非住宅用）が前年比 10.2% 減の 1,380 万ユニットとなったことから、ある程度予想されていました。しかし、今回の見本市では、建物の外皮関連の製造企業が 2018 年から 6 年間にわたりじっくりと製品開発を進めてきたこともあり、来場者の心をつかむ興味深い製品が多数紹介されていました。そのせいか、日本から来場した建築関係者やシーリング材、サッシ製造メーカーの方々も、「長時間フライトで疲れたけれど、見応えのある見本市で来たか良かった」と話されていました。

建築資材の見本市というと、ミュンヘンのBAU（3年毎開催）やドバイのBIG 5 Global（毎年開催）、ラスベガスのIBS NAHB（毎年開催）などの総合建築資材の見本市が有名です。一方、ニュルンベルクのFENSTERBAU FRONTALEは、建物の外皮、とりわけ住宅用の窓や扉、ファサード、またそれらを取り巻くバリューチェーンに特化した見本市となっています。にもかかわらず、同見本市が業界から注目を集める理由は、建物のエネルギー効率化、なかでも外部に面し、エネルギーロスが最も多い窓の断熱性を高めるための展示が充実しているためです。ドイツの窓の品質と性能、製品種は世界的にも高く評価されていますが、会場に足を踏み入れた途端、業界の活況とその底力が伝わってきます。



Gealan 社の買収により、樹脂サッシの世界的リーダーとなった VEKA 社（出展面積 1,000 m²）。6年ぶりの出展となった今回は、アルミニウム窓枠に似た外観を持つ樹脂製サッシと、優れた U 値と溶接可能なドア枠を持つスライドドアシステム VEKAMOVE 76 を中心に製本紹介を行いました。



ひときわ人だかりの多かった窓や扉の金具のトップメーカーGU社。様々な形状・素材に適合する窓枠用取付金具（16mm 溝）UNI-JET や、窓や扉の各種ロックシステム、スライドドアシステム Gretsch-Unitas を紹介していました。

ドイツに訪れた際にまず驚くのが、大きくて厚く、重たい扉や窓。しかし、厳しい冬の寒さを経験すると、居住空間の気密性を高め、なるだけ暖房に頼らず生活をしたいというニーズが見えてきます。さらに最近では、温暖化の影響か、夏の暑さも厳しくなっており、冬と夏の両方を考慮した持続可能な解決策が必要となってきました。複雑化する外皮性能へのニーズを取り込みながら、改正建築物エネルギー法（GEG）の要求事項に適合する製品やサービスを開発するのは大変ですが、今回の FENSTERBAU FRONTALE を訪問し、技術やソリューションが着実に進んでいることを実感することができました。

－ 持続可能な社会の実現

従来の持続可能性、循環経済といったスローガンに加え、ゆりかごからゆりかごまで（再利用できない廃棄物を一切出さないモノづくり）といった完全循環を目指す製品が登場してきました。樹脂サッシ中のリサイクル材の割合を高める取り組みはもちろんのこと、松脂を利用したエチレンなどの「バイオマスプラスチック」のサ

ッシが増えてきたことが今回の見本市の特徴と言えます。一方、木材業界では、天然素材の木材を利用するだけでなく、例えば殺生物剤を含まない含浸処理を行うなど、持続可能な方法で木材を処理するようになってきています。

- スマートコンポーネントを備えたスマートホーム

スマートホームが、どのように日常生活を快適にするのかをライブで体験できるブースもいくつか見られました。出かける際に、建物全体が自動的に施錠され、帰宅時にはガレージや家の扉が自動で開き、冷暖房や換気装置が始動し、エネルギーの使用が効率的に制御されます。さらに移動時には、窓や扉が閉まっているかどうかを確認し、必要に応じて遠隔操作を行うことができるため、安心感も高まります。介護や宅配サービスといった生活支援サービスとの連携にはまだまだ時間がかかりそうですが、建物の外皮関連企業が目指すスマートホームの方向性やイメージはかなり明確になってきました。また、扉に関しては、進化するアクセスニーズに呼応するかのよう、自動スライディングシステムの紹介が増えていました。

- デジタル化

今回の見本市で特に目を引いたのが、機械メーカーやソフトウェアハウスが開発したデジタル製品が充実したことです。従来の業務の効率化に加え、顧客満足度の向上のためのツールが増えてきたこともあり、会場内の各ブースで活発な商談が行われていました。

次回の FENSTERBAU FRONTALE の開催は、2026 年 3 月 24 日～27 日となっています。見本市の見学と同時に、フランクフルトやミュンヘン郊外の住宅展示場などを見学するのも一案かもしれません。



建築物外皮のスペシャリスト Schüco 社（出展面積 585 m²）は、製品中のリサイクル材割合の増加やデジタル化に積極的に取り組んでいます。今回のテーマは「持続可能性」。植樹で覆われたブースは、さながら会場のアオシスのようでした。



世界的メーカー deceuninck 社（出展面積 550 m²）は、2012 年に設立した樹脂サッシのリサイクルセンターを、2018 年には 4 倍に拡張（45,000 トン/年）。また、2022 年には 100% リサイクル可能な Phoenix Profile を市場に投入するなど、時代を先取りした取り組みを進めています。



バイオベースポリ塩化ビニル（PVC）を用いた
新製品 ARTEVO TERRA を発表した REHAU 社。



新製品 greenEvolution モジュラーシステムが好評
であった SALAMANDER 社